

りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

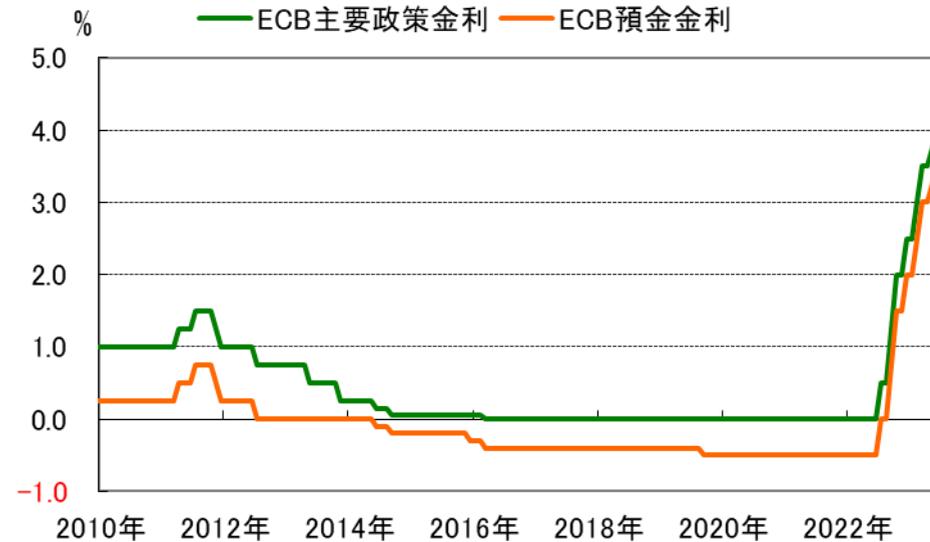
◎注意事項をよくお読み下さい



○概況

- ◆ ECBは6月15日の理事会で8会合連続での利上げを決定。利上げ幅は前回と同様0.25%とした。
 - ◆ ラガルド総裁は記者会見にてインフレ率が高すぎる状態が長引いていると指摘し、次回7月の理事会でも利上げを継続することを示唆した。
 - ◆ 市場では追加利上げの織り込みが進展し、欧州金利が上昇、主要通貨に対してEUR高の反応となった。
- ✓ 6月15日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では8会合連続での利上げを決定し、預金ファシリティ金利を3.50%、主要政策金利を4.00%、中銀貸出金利を4.25%へそれぞれ引き上げた。利上げ幅は前回に引き続き0.25%とした。
 - ✓ コロナ・ショック後の量的緩和で膨らんだバランスシートの縮小に向けて、ECBは再投資規模の縮小（QT）方針を策定していたが、今回の理事会にて7月以降の再投資停止方針を確認した。保有債券の満期償還に合わせて保有資産規模は縮小し、金融引き締め効果が生じていく見込み。
 - ✓ ラガルド総裁は理事会後の記者会見にて、「インフレ率が高すぎる状態が長引き過ぎている」との前の発言を踏襲し、「基本シナリオに大きな変更がない限り、7月も利上げを継続する公算が極めて大きい」と踏み込んだ。一方、9月以降の方針については言質を与えなかった。
 - ✓ 報道によると、一部関係者の発言として、7月の利上げを最後とするかどうかについて当局者の意見は分かれており、9月の理事会で利上げが必要かどうか議論されるとの話を紹介した。
 - ✓ ユーロ圏は昨年の10-12月期に続いて今年の1-3月期のGDP成長率がマイナスとなり、2四半期連続のマイナス成長、つまり景気後退期に入ったとされる。かかるなかで今回更新された経済見通しは微修正にとどまり、ECB内では悲観的な見方は広がっていないことが示唆された。合わせて物価見通しを引き上げていることから、景気後退が深まるリスクのあるなかでも、インフレ抑制を優先し、利上げを継続する可能性は高まったと言える。市場では利上げの織り込みが進み、EUR高で反応したものの、欧州金利の上昇幅は限定的であり、利上げと景気後退の両睨みのなか、次の材料を探して神経質な展開となりそうだ。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（6月時点）】

	2023年	2024年	2025年
実質GDP成長率	+0.9	+1.5	+1.6
3月時点の見通し	+1.0	+1.6	+1.6
HICP（消費者物価）	+5.4	+3.0	+2.2
3月時点の見通し	+5.3	+2.9	+2.1

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。